

## 事業報告書

### 【「働き方の現状」と日本のジェンダーギャップ】

日時	令和6年1月20日(土) 受付13:30 開始14:00~16:00
目的	2023年ノーベル経済学賞受賞者のクラウディア・ゴールドフィン教授(ハーバード大)の受賞内容と日本のジェンダーギャップ順位を確認しながら、講師のインタビュー調査等をふまえ、働く場における「女性活躍を阻害する要因」を考え、その取り組むべき課題を指摘し、参加者との共通課題とする。
対象	関心のある方
講師	石川 公彦 氏 (沖縄大学経法商学部 教授)
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる3階 研修室1・2
定員	40名〔定員に達し次第締切〕
参加者数	21名(うち、男性11名)
講演内容(概要)	<p>「働き方の現状」と日本のジェンダーギャップ 講話：石川 公彦 氏</p> <p>初めに日本のジェンダーギャップ順位や日本企業における人的資源管理モデルを通して「構造化されたジェンダー格差」について学び、日本と外国の制度や組織の違いを確認しました。</p> <p>その中で、欧米は「ジョブ型」と言われる流動的な会社移動ですが、日本は「メンバーシップ型」と言われる内部構造化された業務移動です。そのため日本では「ヒトに仕事がついてくる＝属人化」されており、欧米とは異なる人的資源管理をおこなっているということでした。</p> <p>具体的には、欧米は人事職、経理職、営業職のように固定化された「ジョブの欠員」を補充する＝欠員補充方式で役員や管理職も同様に欠員補充をおこない、転職しながらスキルアップを図ります。しかし日本では新規学卒者定期採用方式で、固定化されない業務を経験しながら、生え抜きの内部昇進の選抜をおこない、転職が少ないとされます。</p> <p>また欧米では解雇が比較的容易(ジョブが必要なくなれば、解雇)ですが、日本では解雇は最終手段とされ、可能な限り雇用継続のため「解雇しない代わりに長時間労働が常態化」し、それが女性活躍を阻害する要因のひとつとされます。</p> <p>制度としては、固定的性別役割分業を基礎とする「男性稼ぎ主モデル」(例として、国民年金第3号被保険者制度等)があり、これも同様に、女性活躍を阻害する要因のひとつといわれます。</p> <p>今回は、企業の制度や社会的に創られた構造を通して、女性活躍を阻害する要因を受講者と共に考えました。</p> <p>制度や構造へ目を向ける際に「変化させられない、社会の変化は無理だ」と思ってしまうがちですが、しかし企業のグローバル化を背景に、日本独自の制度や構造ではグローバル化への対応が困難であるともいわれます。この機会に、グローバル化への対応が必要とされる「女性活躍を阻害する要因」の改善を図ることは、時宜を得ています。</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会構造が欧米とは全くことなるので、なかなか一筋縄ではいかないということは、思いました。とはいえ、ジェンダーギャップは、埋めていかないといけないので(少なくともうちの会社は)、どうすればいいのか考えないといけない。難しい。</li> <li>・諸外国とこんなに違うなら、単純に賃金比較などはできないなと思いました。</li> <li>・男女雇用機会均等法が、男性同様に働ける前提で策定されている。やはり「ニュー稼ぎ</li> </ul>

	<p>主モデル」をベースに改定する必要があると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーシップ型雇用は男性にとっても、より良い雇用とは言えないと感じた。日本の労働者生産性の低さの一因であり、雇用側の改善を期待したい。</li> <li>・目が覚めるような思いで聞きました。図での説明が非常に分かりやすかったです。女性が働き続けられない環境は、やはり男性にとっても厳しいものだと思います。</li> <li>・欧米と日本の仕事の仕方の違いが、ジェンダーギャップに深く関わっているという事が分かりためになった。日本が世界に比べて、女性に対する扱いが悪すぎてもっと(ギャップ解消に向けて)男性の意識を変えるといい。</li> <li>・日本と欧米の働き方の違い、とても分かりやすく納得です。ジェンダー解消の状況。証拠として、働き方のあり方、方式、欧米も参考にしていけるとよいと考えました。</li> <li>・次年度も同様の内容で「働き方の現状」と日本のジェンダーギャップを実施して欲しい。今日参加できなかった方にも参加してもらいたい。</li> <li>・2時間と短い時間だったため、内容をもう少し絞るか、何回かに分けて聞けたらよいと思いました。</li> <li>・沖縄の状況はどうなんだろう？と疑問に感じました。</li> <li>・2時間では足りないな(もっと話を聞きたい)と感じました。ぜひ、第2回、3回と続けて頂きたいです。</li> <li>・男性側の意識が変わらなければ、男女平等や女性活躍はどうてい達成できないので、もっと男性向けの講座をしないと30年経っても何も変わっていかない(変化がゆっくりすぎる)と思う。もっと男性を巻き込むと良い。今からでも遅くはないので、男性の意識変化の促進を。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(一部抜粋)</p>
主催等	沖縄県・(公財)おきなわ女性財団